

対応方針（2025プラン）の変更（周東総合病院）

資料4-3

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容				備考（対応方針 の実施予定 時期等）	
機能区分	R4 現在	R7 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能区分	現行		変更後
高度 急性期			<p>・柳井医療圏で唯一の二次救急病院であり、主に救急医療、高度急性期・急性期医療を担っている。</p> <p>・高度急性期医療については、循環器疾患、外科領域、一部の脳血管疾患は対応しているが、ハイリスク分娩等の集中治療が必要な患者は他の医療圏に流出。</p> <p>・急性期医療については、精神科、皮膚科、耳鼻咽喉科を除くほぼ全ての疾患・領域に対応している。</p> <p>・回復期医療については、高齢者の在宅復帰を中心に対応しているが、一部の脳血管障害の回復期リハビリに関しては他の医療圏の病院に紹介している。</p>	<p>・将来の医療需要を見据えるとともに、現在の診療機能を強化するため、以下のとおり病床数を変更する。</p> <p>・急性期病床については、増加傾向にあるがん化学療法患者に対応できるよう外来化学療法室を増床するため、現在の274床から、217床に変更する。</p> <p>・高度急性期・急性期医療が必要な患者については、5病棟235床で受け入れ、引き続き柳井医療圏で唯一の二次救急病院として、救急医療・高度急性期・急性期医療に対応できる診療機能を維持していく。</p> <p>・回復期病床については、在宅復帰に向けたリハビリや、在宅等において増悪した患者を受入れる機能を強化するため、現在の86床から、93床に変更する。</p> <p>・なお、高度急性期病床については、病床運営にあたっては看護師確保が必須要件であるため、確保が出来ない場合には、急性期病床として運用する。</p>	高度 急性期	18	18	
急性期	274	235			急性期	217	217	
回復期	86	125			回復期	125	93	
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	360	360			合 計	360	328	

病床削減・急性期から回復期への転換時期はR6.4月

高度急性期については、看護師確保の状況を踏まえて実施